

床-天井面により変化する領域境界に関する研究

— 建築の内部空間と風景をつなぐ空間構成について —

学籍番号 一ノ瀬愛弓
指導教員 菅原大輔

床面 天井面 領域 境界 空間構成

1. はじめに

1-1. 背景

機能の効率性を求めたモダニズムにより、世界中に画一性や均質性を持った空間が広がった。世界のどこに建てても室内空間が変化しない建築は、空間が一定であり効率的である。一方で、機能主義によるモダニズムへの批判から、装飾性や折衷性の回復を目指したポストモダン建築が流行した。

そして、1980 年以降人口減少や大都市への機能集が問題視されるようになり、地域性という言葉が注目を集め、景観法（2004 年）や都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）（2004 年）などが整備されたのは、地域特性に寄り添う建築が求められたからといえる。市町村によって異なる景観法により、意匠形態や高さの制限、壁面の位置や敷地面積などが定められる。町並みの統一や眺望保全などが行われ、周辺環境と一体化した建築は、その場所の特性を反映したファサードとなる。そして、地域性が注目されている近年において建築の内部空間が周辺環境と連続している建築空間は、地域特性を活かした居場所となるのではないだろうか。

風景である周辺環境と建築の内部空間が、複数の境界が存在することで領域の境界が不明瞭となり空間が連続する。そのような空間は、地域による多様性や地域特性による居場所を増やし、効率性を重視した均質空間とは異なる居場所の選択肢を建築により与えられるのではないだろうか。

1-2. 目的

そこで地域性を地域特性と捉え、内部空間を取り囲む風景をその場所から見える唯一無二の敷地の地域特性と定義し、周辺環境と連続した建築空間の構成を明らかにする。対象としては、床面と天井面の縁や隅の位置が異なることで、複数の領域の境界をもった建築に着目する。建築の内部空間から外部に広がる境界が重層することで、縁側などのペリメーターゾーンだけでなく、さらに内部まで周辺環境が連続する建築空間となると考える。

上記の建築空間の構成を明らかにし、地域特性を活かした建築の設計手法の一助とする。本論では、床面と天井面の構成により空間構成を分析、空間構成より複数の領域の境界についてまとめ、類型化することを目的とする。

2. 研究概要

2-1. 研究対象

新建築^{※01}にて一都三県（東京都/神奈川県/埼玉県/千葉県）から、視点場所となる撮影場所の断面図があるもの、写真にて異なる領域の境界が存在していることが分かる建築を対象とする。

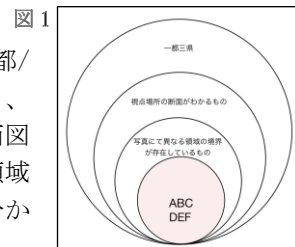
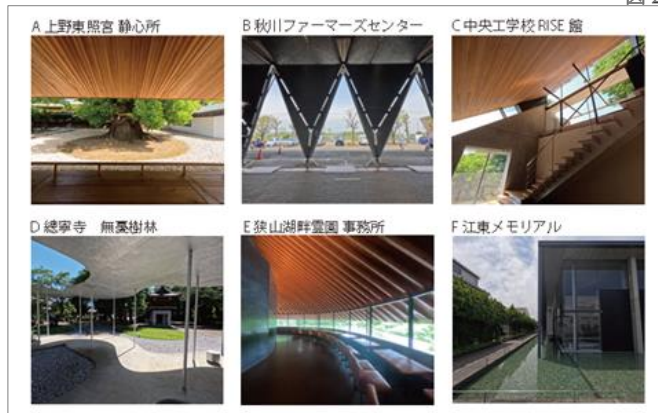


図2



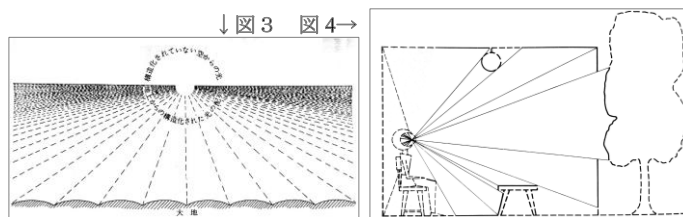
2-2. 研究方法

J・J・ギブソンは生態学的視覚論^{※02}にて、動物の空間認知は大地と空^{※03}が基礎となっていることを明らかにしているが、本論では大地と空を建築空間における床面とその先のランドスケープ、天井面と定義する。また、面に変化を与えるものとして肌理/レイアウト（縁/隅/遮蔽縁）などをあげ、地面のレイアウトや肌理などによる地面の見え方で現在の位置や移動距離を知ることができるとしている。また、ヘンリー・ドレイフュスの視覚に関する基礎データ^{※03}より、視界の範囲を上方に 55° 下方に 75° の計 130° を視野の範囲と定める。

以上より、分析方法を

(1)空間構成 平面・断面図から空間構成を分析。

- 1.床面について
- 2.天井面について
- 3.領域の重なり方について



(2)風景とのつながり方

領域境界を落とし込んだ写真を作成し、各事例の内部空間から外部空間へのつながりを分析する。

1.床面と天井面より 2.仕上げより

上記を事例ごとに分析し、事例ごとの共通点や特徴の因果を明らかにする。現地調査にて撮影した画像は分析の結果を見やすくするため、彩度0に編集する。調査する際の視点場は、平面図や断面図、新建築の文面から妥当な視点を一点決定する。

3. 分析結果

3-1. Aの分析結果

A-(1)

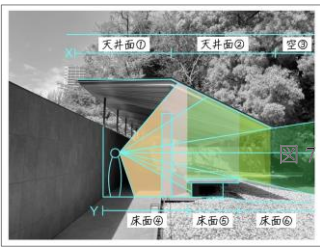


図 5

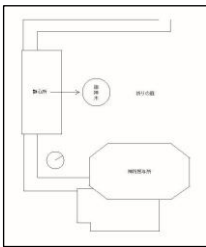


図 6

1.2.3 より

断面的な領域境界の重層。仕上げと、床面と天井面の構成の境界の不一致の特徴が見られた。

A-(2)

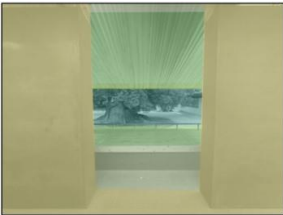


図 7

1.2 より

天井面の勾配により視線の先が下げることで空を見せず、御神木と地面を見せることで境内であることを意識させている。敷地内の風景とのつながりが特徴的。

3-2. 全体の分析結果

・ 建築概要

No.	名称	所在地	建築概要					外観	
			主要用途	敷地面積	建築面積	階数	軒高・高さ		構造
A	上野東照宮 静心所	同所	2343.73㎡	208.51㎡	地上1階	3617mm	2204mm	木造・数寄造	
B	秋川ファーマーズセンター	店舗/事務所	584㎡	1295㎡	地上1階	9350mm	7450mm	複合鉄骨造・軸組木造	
C	中央工学校 RISE館	体育学校	592.40㎡	342.48㎡	地上5階	14545mm	13265mm	鉄筋コンクリート造内床配造一部鉄骨造	
D	徳寿寺 無量殿	お堂/水場/ホワイエ/伊勢ス	11326㎡	65.56㎡	地上1階	2968mm	2923mm	アルミニウム合造造	
E	狭山湖畔公園	事務所	765.86㎡	458.89㎡	地下1階 地上1階	7670mm	6620mm	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造 一部木造	
F	江東メモリアル	寺院	4312.33㎡	332.57㎡	地上2階	8440mm	8190mm	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	

図 8

・ 分析結果一覧

	空間構成					風景とのつながり	
	平面図	断面図	領域境界	床面の境界点	天井面の境界点	平面図	断面図
A				隅/縁/遮蔽線	隅/軒先		
B				なし	隅/角/軒先		
C				縁	軒先		
D				縁	軒先		
E				隅/縁/遮蔽線	軒先		
F				隅/縁/遮蔽線	軒先		

図 9

4. 類型化と考察

4-1. (1)空間構成による分析

境界となる要素として、断面の構成(縁の有無/平面形状/隅・角の有無/遮蔽縁の有無)、平面の構成(直線/曲線/凹凸)で分けていき、対象 A~F より I. 曖昧型、II. 隣接型、III. 複合型の 3 つに分類を行った。床面と天井面の構成に隅や縁がみられるほど、内部空間と外部空間の領域境界が重層し曖昧型となる。空間における断面構成が、領域境界へ影響を与えると考える。

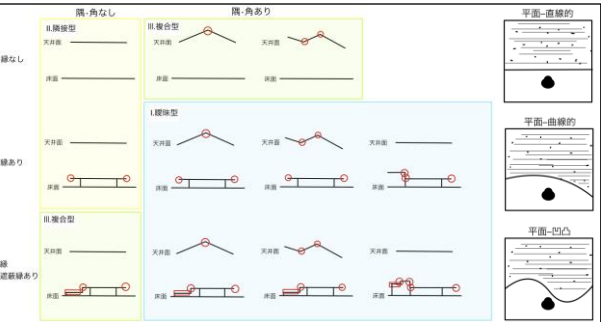


図 10

4-2. (2)風景とのつながり方についての分析

風景との閉鎖的なつながり方をするものや、開放的かつ連続的なつながり方をするもの、水面によって敷地内外の両方の風景と緩急のあるつながり方をするもの、平面的に凹凸があることで敷地内の風景と内部空間が曖昧になり混同しつながるもの、と多様な風景とのつながり方がみられた。内部空間から外部空間へ向かう風景とのつながり方として、床面と天井面による視線の操作だけでなく、肌理によって意識される領域や視線があることで多様な風景とのつながりがつくられることを求めた。

5. まとめ

領域境界が重層することで、ペリメーターゾーンを含めた更に奥の内部空間と外部空間の領域境界がグラデーション的に繋がっていき、空間が一体化することが分かった。領域境界が重層することで、外部空間であるその場所唯一の特性である地域特性と内部空間が一体化した建築空間となる。地域性が注目され続けている現代において、地域特性を活かした建築空間の設計手法の一助とする。

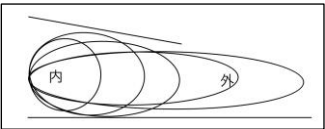


図 11

参考・引用文献

- ※01…新建築 新建築社
- ※02/図 3/図 4…生態学的視覚論 著:J・Jギブソン サイエンス社出版
- ※03…景観の構造 著:樋口忠彦 技報堂出版
- 図 1/2/5/6/7/8/9/10/11…筆者撮影・作成
- ・韓国南沙里における境界の開放性と閉鎖性による空間特性に関する研究 (その1) 鄭攻静 古谷誠章
- ・全周パノラマ画像を用いた離散的視覚情報の変化の定量分析手法 副田和哉 平瀬有人 三島伸雄
- ・底と風景のあいだ 著:宮城俊介
- ・建築的移行帯の実践的研究 菅原大輔